

市長と語る会(H29. 2. 24住吉文化センター)における意見及び市長の回答

No	意見	回答
1	<p>「たっち」などから子どもの情報を聞いてその家の前まで行くが、外から眺めることしかできず、中の様子がわからない状況など、なかなか情報が流れてこないという感じている。守秘義務のある中で、周りの人にそれとなく様子を聞くが、なかなか込み入った話もできないこともあって、いつも葛藤している。</p>	<p>「たっち」からの情報は、増えてきていると感じられている方が多いと思う。多摩児童相談所も虐待の相談等は非常に多く受け付けている。ただ、何ができるかという、最後は専門的な方をお願いするしかなくなるので、何とかしてあげたいという気持ちがあればあるほど、そこにジレンマがある。</p>
2	<p>(1の意見に関して) 「たっち」から連絡をもらって家庭の様子を見ることがあり、情報がない中でそれなりに歩き回って様子を見るが、解決したという報告が入ってこず、別の機会にその問題が解決したとわかったことがあった。そうすると、それまで用もないのに見回っていたことになり、寂しい感じがした。一言で結構なので、連絡があればと思う。 また、顔がわからない状態で見守って下さいという話があるので、見回りが難しい。「たっち」で写真を撮ったりもしていないと思うし、難しいとは思いますが、写真などもあると助かる。</p>	<p>解決したなら解決したといえれば達成感が感じられるし、まだ複雑な状況から抜け出せなく、さらに見回りをとすることであれば、またもう一度見回りをという気持ちになっていただけだと思う。「たっち」に寄せられる情報というのは直接の場合と、学校、保育園、幼稚園、近隣などから寄せられる情報があると思うが、受けた情報をそのままお伝えするという一方通行の仕事になっているのかもしれない。 個人情報との絡みと、それからお子さんのこともあるので難しい面もあり、また、もしかしたら「たっち」のほうでも解決したと捉えていないのかもしれないが、そのような情報を掴んでいけば、せめて解決したと報告をした方がよいと思う。</p>
3	<p>今、市内には地域包括支援センターや障害関係の施設、「たっち」など、いろいろな専門機関が増えてきたと思う。また、当事者の方たちや団体、ボランティア活動も育ってくるなど、かなり自分たちの経験からお話をしていただけるような組織ができてきたと思うが、それだけでは地域で生活していくのは難しい方もいると思う。そうなってくると市長がおっしゃっている市民協働の中で、地域の方々がそういう方を見守っていけるような地域をつくっていかないといけない。専門機関、当事者、ボランティア、地域がうまく循環していかないと、地域で、子育て中の方や高齢の方たちが生活していけないのではないかなというのは実感している。 その辺を民生委員の活動の中で皆さんからも教えていただいたり、いろいろな方々とアイデアを出し合うなど、協働しながら取り組んでいかないといけないと考えている。</p>	<p>確かに、いざとなったときに相談に行けるような専門機関などの体制づくりは少しずつできつつある。問題は、そこにずっといられるわけではないので、地域の中で生まれてくるキーパーソンと一緒にグループになるようにつなげていかなければならないということで、それが無理矢理ではなくて、一歩出てみようかなという程度の動きから始めるということが大事だと思う。今までのこの会で、せめて自治会に入ってくればという声や、社会福祉協議会をお願いして進めてもらっている「わがまち懇談会」やサロンなどで、何とかつながりをつくるという努力をしているという話を伺ったりもした。それで実際にすごく輝いている方がいらっしゃる一方、それでもなかなか手が届かなくて、孤独死などが実際に起きてしまうこともある。 東日本大震災の後に市長になり、地域のきずなや、日ごろの防災訓練のあり方などを見てきて、学区域ごとに何か地域のコミュニティを醸成するものをつくろうとしているが、府中は既に文化センターがあるため、ここを福祉の1つのエリアとして考え、押立文化センターと武蔵台文化センターの2つで福祉コーディネーターという方を置いて、いろいろな相談を受けながらつなげていくということも始めたところであり、年々1人ずつ増やしていくことを計画している。</p>

市長と語る会(H29. 2. 24住吉文化センター)における意見及び市長の回答

No	意見	回答
4	<p>市のポップコーンのボランティアに参加している。是政文化センターのキッズルームが改築されて、すごくきれいとのことで見学したところ、参加しているお母さんたちの中で、地域にキッズルームがないので欲しいとおっしゃっている方がいた。また、体育館でのポップコーンは、駐車場があるためいろいろな地区から参加している方がいるが、特に四谷地区のほうがキッズルームがないということだった。キッズルームのある場所をお伝えするが、やはり0歳児の赤ちゃんを連れてそこまで行くというのは、真夏とか真冬というのはちょっと厳しいという声もある。府中市から学校を卒業して外に出ても、結婚、子育て、出産などで戻ってくるという方も多いので、そういういつでも集まれる場所があれば、育児の孤立感もなくなると思うので、キッズルームが日新、四谷地区にできればと思う。</p>	<p>育児で孤立するお母さんは実際にいらっしゃると認識しており、市ではこれまで出産からのケアという話をしていたが、今はもう妊娠期からどうケアができるかというものも考えている。いずれにしても同じぐらいのお子さんをお持ちのお母さん同士が、悩みを打ち明けられたり情報交換ができるということは非常に有意義なことなので、何とかそうやって支えていき、子育てするなら府中でとになってくれればと考えている。子育て世代の転入増で人口も増えているが、地域によって偏りがあってはいけないので、いろいろと検討してみたい。</p>
5	<p>片町の公民館で子ども食堂を手伝っているが、それを立ち上げた方が最初文化センターを使おうとしていたが、貸して下さらなかったということだった。わがまち懇談会という話がありましたが、普通の人にとっては、それって何だろうという感じのものだと思う。それよりも、子ども食堂など、ご飯が食べられるという方が行きやすいと思うので、そういうものを文化センターで開催させていただければと思う。</p>	<p>子ども食堂についてはほかの地区でも話があり、経済的に苦しいために食事が十分でなかったり、両親が仕事で早く帰ってこないために子どもが孤立化してしまうなど、そういうことを考えて行っていたいるのだろうと思うが、ここに複合的ないい結果が出て、そこに高齢者の人が来られて、それが1つのサロンになっていると聞いた。 今後は、そういった趣旨で立ち上げられたグループを文化センターの登録団体にしていかなければいけないと思う。</p>

市長と語る会(H29. 2. 24住吉文化センター)における意見及び市長の回答

No	意見	回答
6	<p>市でも中学生を対象とした学習支援を行っているという。先日、PTAの方より、NPOが生活に困っている人の子どもたちを対象に学習支援を始めようと思っているが、資金面と場所の確保が大変と聞いたという話があった。市長がおっしゃったとおり、文化センターが、今までどおりではなくいろいろと対応できるような場所になると、1ランクアップした文化センターになると思う。加えて、そういう団体への資金的な応援などにも力を入れていただきたい。</p> <p>また、生活に困っている家庭で大学に行きたいという場合に、社会福祉協議会の生活福祉金というのがあるが、やはり返済は大変だ。この間の広報を見て、市の方でも給付型のものに力を入れているのはわかるが、一層給付型の支援をしてほしいと思う。</p>	<p>学習支援については、国の補助金などを使いながら、市でもふれあい会館を使用して行っており、現在、3年目ぐらいになると思う。やはり学校だけで受験に備えられるかという、なかなか人によってはそうもいかない。ただ、学習塾に通うとなると所得によって随分差が生じてしまうが、親の貧富によって子どもの貧富の連鎖があってはいけないと考えている。内容としては、中学3年生の特に2学期ぐらいになると今までより回数をふやすなど、予算の幅も広げているところである。そういうふうに自主的に学習支援をしたいというNPOがあるということであれば、市民活動を支援する窓口もあるので、市のほうに相談をするようお伝えいただければと思う。</p>
7	<p>災害時の緊急キットをほぼ配り終わったが、配った人が書類の更新をしているかが不安である。配布を始めて10年近くたつと思うが、最初に配るときに、変更があった場合は更新してくださいということが書いてあるが、更新している人がいるのかと思う。結局、中に入れている紙は、最初に1枚お渡しするだけなので、それをコピーしていればよいが、なかなかそうはいかない。そこで、できれば市から2年に1回ぐらい名簿に載っている人へ、変更がある場合に記入する用紙を配っていただければと思う。</p>	<p>(高齢者支援課からの回答)</p> <p>災害時の緊急キットは、平成22年ごろから配付していただいていると思う。7年近く経過している状況で、市としても課題として捉えており、老人クラブや高齢者地域支援連絡会等で更新を呼びかけている。現在、市職員を中心に、包括支援センターと協議をして、更新方法を検討している。</p>
8	<p>民生委員1人の担当地域をもっと小さくしてもらえると、きちんと見て回れるし、やりたいという人が増えると思う。例えば、同じ住吉町一丁目でも、住吉小と南町小と四谷小にわかれている。中学校も三中と八中なので、5つの学校の協議会などに出ることになる。入学式、卒業式も体が1つしかないの、どこかしら抜けてしまう状況にある。</p>	<p>やはり構造的な改革も必要だと思う。やりやすい形にしていくしかないのだろうと思うが、現時点では答えがない。</p>

市長と語る会(H29. 2. 24住吉文化センター)における意見及び市長の回答

No	意見	回答
9	<p>分梅町一丁目も高齢化が進んでおり、子どもが近くにいない高齢者がひとり暮らしとなり、最終的には施設に入られている。そのため、防災キットの配布時に、名簿には残っているが、実際には住んでいないということがある。そういうところはこれから増えてくるが、市として何か対策をとっているのか。</p>	<p>空き家の関係は問題になっており、明らかにそこにお住まいではないということが周りからわかり、情報をいただくので、どのようにして解決していくかということを考えている。ただ、そこまでではなく、住民票があるとなると、市としてはそこに住んでいるという認識になり、施設に入られているかどうかというのは、行政としてはつかめないこともあるので、そのような情報は市にも伝えていただければと思う。</p>
10	<p>四谷三丁目も高齢化が進んでおり、防災名簿に載っている方も年々増えている。防災対策としては、自治会、小・中学校、民間の事業者の方々が、それぞれ一生懸命対策をしているが、それぞれが一堂に集まって話し合いというのはまだ行っていないので、そのような情報交換をして横の連携をつくることにより、対策を立てられたらいいのではないかと思う。</p> <p>また、四谷橋のたもとにあるアスレチック公園でたくさんの子どもの遊び場があり、午後4時ぐらいまでは大人が目があるが、それ以降子どもだけになったときに、多摩川のホームレスが公園にくるので、何かトラブルがあったら怖いなと思っている。</p>	<p>府中市は多摩川の中流域で、特に四谷小の前から四谷橋の間は人目を避けて生活するホームレスが多い。ただ、そんなに凶悪な人はいないと思うが、やはり心配はある。</p> <p>(生活援護課からの回答)</p> <p>市内のホームレスの人数は、一時期は100人ほどいたが、現在は10人程度に減っている。生活援護課で巡回相談員という者を雇っており、週に何度か、施設へ入るよう話をしたりなどしているが、なかなか移るのは難しいという方が残っている。</p>
11	<p>お祝い金や熱中症グッズをお配りしている際にひとり暮らしの方とお話すると、自宅に閉じこもっているという方が多い。そういう方は話し相手は欲しいが、出ていくところがないと話されており、その場合にサロンや地域交流体操のパンフレットをお渡しすると、初めて聞いたという方が非常に多い。せつかくいい事業を行っても、お年寄りの方に情報が伝わってないようなので、うまく伝えられる方法があればと思う。また、新庁舎もできるので、お年寄りも子どもも、みんなが和めるような場所ができればいいと思う。</p>	<p>確かに、高齢の方でも非常に元気な方はいらっしゃり、地域のグループなどで見かける方は高齢になっても本当にお元気で、その方々が、とにかく家から外へ出ることが大事で、体を動かして、笑って過ごすことが長生きの秘訣だとおっしゃっていた。その最初の外へ出るというところについては、どう情報を伝えるか考えたい。</p>

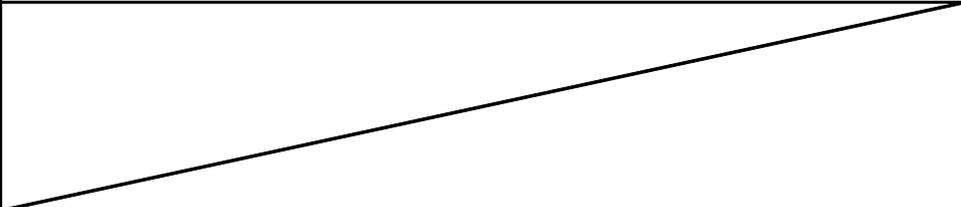
市長と語る会(H29. 2. 24住吉文化センター)における意見及び市長の回答

No	意見	回答
12	<p>精神障害の方の状況を確認しようと市役所に電話したときに、以前やり取りしていた職員の方が異動になり、担当が変わっており、個人情報なので教えられないと言われ、民生委員で守秘義務を持っていると言っても教えてもらえなかったことがあった。地域福祉推進課に間に入ってもらい、今はその方とはすごく良好な関係になっているが、市役所の担当者がか変わった場合は、連絡を密にしてほしい。</p> <p>また、救急キットについては、必要ないと言われたり、お渡ししてもきちんと取り扱われていないことがある。民生委員としても、渡しっぱなしではなく、何かで回ったついでにどのように保管しているかなどを確認した方がよいと思うが、市としても対策をしてほしいと思う。お年寄りの方は、時間がたつと申し込んだことも忘れてしまうので、そこも踏まえて考えてほしい。</p>	<p>そういうケースは、特に連携を密にしなければいけないが、市の職員もいつまでも同じ部署にいるわけにはいかないの、人事異動などのときにそういったお叱りを受けるときがあるので、きちんと対応したい。救急キットについてもわかりました。</p>
13	<p>精神疾患を患っている方から相談を受けた場合、高齢者ならば地域包括支援センターにつないだりできるが、60歳未満の介護サービスが使えない人たちは、そういうところにつなげることができず、さらに障害者のサービスが受けられるほどでもない方には、なかなかつなぎ先がないのが現状で、社会福祉協議会の地域コーディネーターと協力して話を伺うことはできるが、それだけにとどまってしまうのが心苦しい。</p>	<p>精神的に障害をお持ちの方で、30代半ばよりも下ではなく、高齢者でもない方から相談があった場合のつなぎ先の問題は以前の語る会でも出ていた課題である。その場合にどうつないでいくかは、そのケースによって変わるが、いずれにしても、まずは市の担当課へ連絡をいただき、その先をどうするかを一緒に考えていかなければならないと思う。</p>

市長と語る会(H29. 2. 24住吉文化センター)における意見及び市長の回答

No	意見	回答
14	<p>学習支援の話が出たが、子どもが学校に行かなくなったきっかけが、勉強についていけなくなったからというケースがあった。ちょっとしたつまずきで学校に行けなくなってしまうのは寂しく感じる。昨年、学童クラブと放課後子ども教室を見学したが、その2つには大きな違いがあって、学童クラブは子どもを預かるのが目的のため、ただ預かるだけだが、放課後子ども教室は、宿題や計算など、勉強も積極的に教えてもらえるということだった。学童の内容を一ひねり加えてもらいたいと願っている方が少なくないのではないかと感じた。</p>	<p>不登校については、いろいろな努力をしているが、学校に通っても教室までは通えずに校内の別の場所に通っている子や、学校自体に行けずに教育センターで勉強している子どももいる。おっしゃるようにちょっとしたきっかけで、まして学校の勉強についていけないとなると、それで自分の内にこもってしまうということなので、保護者の方も苦労されていると思う。学校の方でもいろいろと働きかけはしていると思う。</p> <p>また、学童クラブは基本的に保護者が働いており、家に帰っても誰もいない子どもを預かる場所になっていて、これはずっと変わっていない。放課後子ども教室は近年できたもので、子どもたちの学校以外の時間の居場所づくりとして「けやきッズ」という名称でNPO法人や、その類似団体が運営をしている。その中身については子どもたちや保護者の声を聞きながら考えているので、努力をしているのだと思う。</p>
15	<p>特別養護老人ホームにボランティアに行っているが、認知症の方がどんどん増えている。地域を見ても高齢者が多いので、ほっとサロンのような、みんなで集まって何かできる場所があるといいのではないかと考え、いま実施に向けて検討している。</p>	<p>ぜひそういうのも立ち上げていただければと思う。</p>
16	<p>府中市の保育園の待機児童数がワーストに入っていたようだが、その対策は進んでいるのか。</p>	<p>多摩地域で保育園の待機児童が一番多いのは府中市で、全国でも10番目ぐらいに多く、待機児童のほとんどは1歳と2歳である。保育園は毎年つくっており、15年前の1歳児の保育所の定員は450人であったのを、現在は950人ぐらいまで増やしているが、解決に至らない。恐らく、今度の4月1日は、都内へ通いやすい、いわゆる住みやすいところは今までにないぐらいの数字になる。今は育児休業制度が様々な企業で充実してきたため、1歳になったときにみんな復職する。祖父母が預かってくれればいいが、そういう環境にない場合が多いという状況である。保育園に11時間ぐらい預けられている方もおり、そうすると保育士のシフトをつくらなければならないので、保育士が足りない問題もある。</p>

市長と語る会(H29. 2. 24住吉文化センター)における意見及び市長の回答

No	意見	回答
17	<p>ヤクルトの仕事をしているが、ヤクルトは見守りも兼ねており、週3回ひとり暮らしのお年寄りにヤクルトを届けながら、元気かどうか確認し、孤独死をなくす事業を行っている。ただ、多くの家を訪問しても、出会える人はほんの数人で、ほとんどのドアが開かない。これもやはり外に出る機会がないというのにつながってくるのかと思うので、先程話のあったサロンのようなもの始めるなど、その辺を改善していただければ少し違うのではないかと思っている。</p>	<p>市では、郵便配達、新聞配達、ごみの回収、コープ、生協などの事業者と見守りなどいろいろ協定を結んでおり、最近もセブンイレブンと総合的な協定を結んだ。いろいろな提携をすることは、商品を販売する企業側にとってもメリットがあるだろうし、行政だけでは目が行き届かないので、そういったことにも目が届くということを考え、今後もウインウインの関係というのを探し出していかなければいけないなど今の話を伺って思った。また、地域によって高齢化率などいろいろな状況が違うということも把握しなければいけないと改めて思った。</p>
18	<p>心の病気にかかった方の家族と話をしたときに、重度ではなく社会生活ができることから就労の相談を市にしたときに、市ではそういうものは行っていないという回答だったと知り合いに聞いた。横浜市では、そういう場合の就労のあっせんをしてくれる機関があるようだが、軽度ならば就労することによって自立もできるので、府中市にもそういう機関があればいいと思った。</p>	<p>市の職員でも場合によっては、「それはハローワークです」と言って終わってしまうかもしれない。皆さんのところに来た情報であれば、生活援護課や担当の地域福祉推進課につなげられるようにしたいと思う。</p> <p>(生活援護課からの回答) 一昨年、生活困窮者相談窓口というものをつくると同時に、ハローワークの職員の方2名に来ていただいている。生活が苦しく、仕事をしたいということであれば、生活援護課に来ていただければ、就職に関する情報が入っている端末があるので、それで紹介をすることができる。</p>
19	<p>(18の意見に関して) 精神疾患の方の就労については、南町の心身障害者福祉センターの中に「就労支援事業み～な」というのが情報を提供する場になると思う。あと「地域生活支援センタープラザ」というところにも相談窓口がある。</p>	
20	<p>以前、ある人がホームレスを集めて、生活保護を受けさせて生活させていたケースがあった。生活保護を認めるときの基準をしっかりとしていればこんなことにはならなかったもので、きちんとお願いしたい。</p>	